

第 6 回ソーシャルイベント研究会 レポート

■日 時 平成 26 年 2 月 14 日(金) 16:00~17:00

■会 場 日本イベント産業振興協会 会議室

■内 容

- ・研究会の進捗状況説明
- ・出席者情報交換

[出席者]

座長：小林政則（イベント支援ネットワーク）

石井崇（ミドルウッド）、内田なお子（昭栄プリント）、大根田利夫（ダーツ）

宮地克昌（東京観光専門学校）

[オブザーバー]

加藤貴之（飛脚の加藤）、小林勝海（漫画家学会）、堀江信之介（産業能率大学）

[事務局] 小西功一、菊地浩之



【概 要】

第 6 回ソーシャルイベント研究会では、2 件のネタメッセプレゼン（小林政則/イベント支援ネットワーク、小島敏明/乃村工藝社）と、イベント見本市（家政党/電通テック）のプレゼンテーションを実施する予定だったが、大雪による影響で出席不可能のメンバーが多く、集まった出席者による情報交換会として開催。初めてオブザーバー参加したメンバーへの主旨や活動内容の説明、出席者間の情報交換を行った。イベント見本市については3月度の研究会であらためてプレゼンをしていただくこととした。

■ソーシャルイベント研究会の主旨と活動内容の説明（小林座長）

この研究会は、ソーシャルイベントとは何かを学術的に定義付けをすることだけが目的ではなく、様々な社会的課題や参加者自身が持っている課題をイベントの手法で解決していくことを主旨に開催している。さらに研究にとどまらず、ビジネスに結び付けていくことも目標としている。

ちょうど、2 月 16 日 17 日に群馬県の上野村でのプレゼンテーションも予定している（大雪のため延期）。その提案書も用意しているが、ここにはソーシャルイベントの課題や意義、またメンバーの持ち寄った研究プログラムも紹介しているのでごらんいただきたい。

なお、会員の皆さんから提案していただいているソーシャルイベントの「ネタ」を、学会 Web でも紹介している。上野村のプレゼンテーションではこの「ネタ」もチラシの形で紹介も実施する予定である。

今日は私も、ネタメッセプレゼンの中で、「大船渡 津波伝承館」の活動紹介と「ゴールドコーストの音楽家・ロフリー久美子」の活動紹介を行う予定だった。イベント見本市プレゼンは電通テックの



家政さんに「2020年までのプロジェクトに注目」という題目で発表していただく予定だったが、3月に日を改めてお願いする予定。本日オブザーバーで参加していただいた皆さんも、可能であれば今後は会員として参加して、提案や発表をお願いしたい。

■出席者情報交換

堀江信之介(産業能率大学)

まだ大学生で今は23歳、3年生で就職活動中。昨年までは岐阜の大学で水泳部の選手をしていた。昨年度は岐阜で国体が行われたが、大学入学直後に準備が始められていた。水泳の選手ということもあり、競技役員資格を取得して運営のお手伝いをした。実家は名古屋で、高校生の時にイベント制作会社の現場スタッフのアルバイトを始めて、前の大学までの7年間イベントの現場に携わってきた。イベントを運営する側として社会に出たい。



石井崇(ミドルウッド)

弊社はホテル業で、グランパークホテルの名称でビジネスホテルとシティホテルがあり、伊豆熱川にホテルカタラを経営している。今年3月から、千葉の御宿にサザンテラスの運営もスタートする。4月からは、蒲田のパネックスというホテルのレストランではビジネス交流会等を、新橋のジュールスタジオではダンスのショーケース等のイベントを定期的開催する計画を進めている。

2月末のキンサロではホテルカタラでのキンサロのプランをプレゼンする予定。



小西功一(事務局)

事務局では、会員サービスの質の向上を考えているが、逆に会員の皆さんから色々なご提案をいただき、ミドルウッドさんの施設も多くの方が利用するような形で会員間のコミュニケーションも盛んになっている。事務局としては非常に嬉しい傾向であり、会員数も増えている現状にある。まだ入会されていない方も、ぜひ仲間に加わってイベント学会のネットワークをご利用いただきたい。



小林勝海(漫画家学会)

イベント学会にはJACEの紹介で参加した。1年半前に2020年オリンピック招致のオフィシャル団体として紙芝居でプレゼンした。日本漫画アニメキワ荘フォーラムというNPOも運営しているが、イベント業はまだ6年目なので分からないことも多い。イベント学会を通じてアドバイスをいただければ嬉しい。

会社は、漫画家と紙芝居師を束ねている集団で、私自身は営業を行っている。得意としているのは昭和のイベントで、点で頑張っている個人



のアーティストに活躍の場を広げ、紙芝居をメインにホテルの宴会や夏祭りなどを行っている。皆さんとコラボレーションをしながら、日本をいい国にしたいという壮大な夢を持っている。

加藤貴之（飛脚の加藤）

歩いて物を届ける飛脚を仕事にしている。1歩1円で依頼を受けて、物だけではなく物語や感動を届ける。目的は夢を届けたい、元気にしたいという気持ちで、結婚式の祝電を届けたり、アフリカで450km歩きながら日本の和食やおもてなしなどの文化を届ける、逆にボツアナの物を持ち帰り日本でイベントを行ったりしている。

4月からは兵庫県の朝来市に移住することになった。日本のマチュピチュと呼ばれる竹田城があるが、そこで地域づくりをする仕事をスタートする。これを機にイベント学会に入会し、皆さんにぜひお知恵を拝借したい。



宮地克昌（東京観光専門学校）

佐賀女子短大でPRのノウハウを指導する講座を行い、非常に好評をいただいた。イベント学会でも、会員の学生などを集めて無料で実施して、評判が良ければ有料コンテンツとして各地の学校で展開できないか、と事務局に提案している。

佐賀女子短大には、武雄市で女子高校生の時に鷹匠をしていたという学生が在席しているが、16日に行く上野村は江戸時代に鷹を供給する天領だったので、私が提案しているタイムトラベル体験「歴史の駅」を、鷹匠や鷹狩り、江戸時代から伝わる食などから観光資源を創造する提案を行いたい。

もう一つ、カメラマンのマナーについて、花を撮影する際に足下の花を踏みつけてしまう人が公園に増えている。それを促すキャラクターとして「マナティ」（仮称）の缶バッジも計画しているので、皆さんにお知恵をお借りしたい。



■まとめ（小林座長）

2020年東京オリンピック・パラリンピックの開催が決定し、スポーツイベントは大いに盛り上がっている。イベント学会ではスポーツイベントはもちろんだが、復興イベント研究会で復興博覧会構想を研究しているチームもある。このソーシャルイベント研究会の中でも、今後オリンピック関連イベントの分科会を開くようなことも考えられる。

◎次回第7回ソーシャルイベント研究会

3月18日(火) 16:00～17:30 日本イベント産業振興協会会議室にて開催

懇親会

大雪のため次回に延期

以上